

◎熱帯林業講座◎

及ぼす影響に関する考察：ミャンマー連邦バゴー山地の事例から，東洋文化研究所紀要 145：133-175. 5) Forest Research Institute (1961) 100 Years of Indian Forestry：1861-1961, Vol. 2, Dehra Dun. 6) Forest Survey of India (2001) State of Forest Report 2001, Dehra Dun. 7) FAO (2001) Global Forest Resources Assessment：Main Report, Rome. 8) *ibid.* 9) Forest Survey of India (2001) *op. cit.* 10) Schmithüsen, F. (1986) Forest Legislation in Selected African Countries, Rome：FAO. 11) Nigerian Forest Authority (1947) The Fifth British Empire Forestry Conference, London, 1947, Lagos.

図書紹介

◎樹木生理生態学 小池孝良編 朝倉書店 pp.264, 2004. 4800+税

樹木生理生態学は環境と樹木の成長との関係を解明する学問で，森林の育成や森林生態系の修復のための基礎学であると編者は定義している。樹木は多年生で長年にわたり各種の無機的・生物的環境ストレスに曝されながら成長・繁殖を続けることから，環境と成長・繁殖の関係を明らかにすることは，合理的な森林の造成・保全・管理・修復にきわめて重要である。

森林を取り扱う場合に，個体としての樹木と環境の関係を知るのみでは不十分で，群落状態における成長反応を知ることが，非常に重要である。また，樹木は高木となり，高い位置に成長点と生産の場（葉層）を持つことなどから，大型，高層な対象物扱うという研究上の困難性が存在したが，最近の小型・高性能機器類の発達によって，そうした不便性が解消され，林冠層における生理生態反応なども詳しく解明されるようになった。本書にはこうした新しい分野の研究成果が多く取り込まれている。

本書は20名の働き盛りの大学中堅教官や研究者らによる共同執筆である。その内容は，1. 森林の保全生態，2. 地域変異と生活環の制御，3. 樹冠樹の共存機構，4. 光合成作用，5. 呼吸作用，6. 光合成産物の分配，7. 樹木の肥大成長，8. 水環境への応答，9. 窒素動態と代謝，10. 繁殖，11. 生態系修復，12. 環境変動から構成されている。主に国内における研究成果が中心に著述されているが，11章の生態系修復は，サバ州の熱帯林を対象にした研究が詳説されており，実務的な技術解説もあり，熱帯林業研究会の会員の方には直ちに参考になるであろう。

最近の学問は先端化，細分化されてきており，一人の学者が一学問分野を執筆することは困難になってきているが，○の植物生理学あるいは△△の熱帯林生態学などと呼んで，筆者を冠した教科書で学んできたオールド世代の人間にとっては，多勢の専門家による分担執筆には，教育という視点からするとやや物足りなさを感じている昨今である。その点本書は，編者の小池孝良氏の個性，思想性が比較的良好に内容ににじみ出ている点が長所であるといえるだろうか。

(森 徳典)